

未来にかける虹の架け橋

● 関西大学
防災福祉プロジェクトチーム

防災への思いから生まれたプロジェクト

「防災は、みんなの問題。最も助けを必要としているにもかかわらず、支援が届きにくい人にこそ、防災の輪を広げたい」。そんな思いを込めて、関西大学社会安全学部 近藤誠司教授のゼミでは『みんなのぼうさい』というスローガンを掲げました。全国各地で10種類以上のプロジェクトを展開しており、近藤ゼミに所属する学生がボランティア団体として活動しています。

大阪府社協では、みなさまの思いがこもった寄付や遺贈をもとに「にじいろみらい基金」を運営し、大阪府内の様々な団体を助成という形で支援しています。

今回は、今年度助成を受けて活動している、2団体にお話を伺いました。

にじいろみらい基金のHPがリニューアル！



ぜひチェックしてみてください！



● Nekko to Ohana

孤立しない居場所を

「不登校の子どもに関する支援は、もちろん大切だが、その親を一人ぼっちにしない」。そう語るのは、Nekko to Ohana 代表の真野潤子さん。池田市教育センターで10年以上、不登校の子どもや家庭を支援してきた経験から次のように話します。「子どもが不登校になると、家庭が閉鎖的になり、情報が届きにくくなることで『自分だけが悩んでいる』と思ってしまふ親は少なくない。だからこそ、一人で抱え込まずに話せる場所の必要性を痛感した」。

『Nekko to Ohana』は令和5年から活動を開始し、普段は小学生から22歳までの子どもの居場所づくりや親同士の交流の場づくりを実施して



学生が防災かわら版を渡している様子

学生と地域がともに取り組む「防災×福祉」

自然災害のリスクが高まるなかで、特に在宅・一人暮らし高齢者の防災意識を高めることは、難しい課題の一つと考えられます。

そこで、防災福祉プロジェクトチームは、島本町で高齢者の防災力向上をめざした新たな挑戦をはじめました。それは年に10回、島本町社協が実施する配食サービスに合わせ、約500世帯の利用者に、防災かわら版を配布すると・しまもつとを配布する取り組みです。

『しまもつと・しまもつと』には、「まるととみんなを包み込みたい。もつと防災力を高めたい」という「インクルー



活動を支えるメンバー
左から錦織美和さん、真野潤子さん、帆足あきさん

います。

子どもの居場所づくりの利用者からは「自分のペースで安心して過ごせる」といった声や、親の交流の場づくりの利用者からは、「同じ境遇の方と悩みを共有することで、自分だけが悩んでいるわけじゃないと感じた。不安が解消できた」といった声があがっており、利用者にとって、安心できる場所となっていることが伺えます。

支援をつなぐHUBをめざして…

令和7年4月、池田市社協が主催する「共生のまちいけだプラットフォーム」から、不登校の子どもを支援する団体や支援者同士が情報交換できるコミュニティ、『道しるベサロン』が生ま

シブ防災への思いが込められています。また、寒暖差疲労への対応や夏バテの対処法など、安全・安心に役立つ情報が4コマ漫画とともに掲載されており、誰が見てもわかりやすい内容になっています。

地域のみなさんの声が学生の力に！

防災かわら版を手配りしているメンバーの4年生の2人に、活動のやりがいを探ってみました。

三枝千夏さん

いつも防災かわら版を楽しみにしているおじいさんから、「どこにいったか分からん号があるから、また刷りなおしてほしい」と伝えられた時、地域の方に取り組みが定着していることを実感し、やりがいを感じました。

森合一樹さん

防災かわら版を地域の方に渡した時、「いつもありがとう。見ておくね」と何気なくいっていただいた感謝の言葉が、やりがいにつながっています。

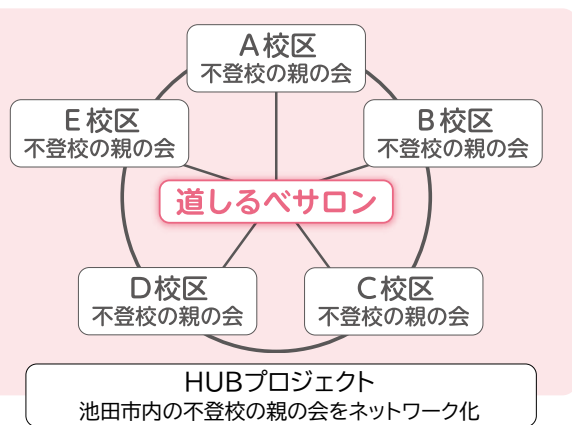


パン作り教室を実施！（居場所づくり）

『道しるベサロン』はNekko to Ohanaが実施主体となり、池田市内の5つの中学校区に不登校の親の会を作り、それらをネットワーク化する「HUBプロジェクト」をすすめています。真野代表は「情報が届かず孤立しがちな保護者をつなぎ、学校・子どもの支援格差をなくすためには、子ども・保護者・学校・行政がフラットに話せる場が必要。道しるベサロンはそれをつなぐ、まさにHUBの役割を担っている」と話します。また、「私たちは不登校の子とその家族が地域の中で安心して暮らせる社会をめざしている。将来、不登校の家族への支援が日本中に広がるとうれしい」と今後の思いを話します。



お寺で勉強会を実施！（居場所づくり）



島本町における高齢者の防災力向上プロジェクト。試みで始めた防災かわら版の配布が、今となっては、活動を継続する原動力になっています。これからも「学びあいを大切に地域のみなさん」とともに歩まれます。



左から森合一樹さん、近藤誠司教授、三枝千夏さん

防災かわら版ができるまで…

- 1 ZOOMやLINEを活用しつつ、掲載情報について会議！
※季節ごとに注意すべき災害情報について勘案
- 2 左紙面の記事は3年生が担当、右紙面の4コマ漫画は4年生の三枝さんが担当
- 3 近藤教授 チェック！
- 4 島本町社協 チェック！
- 5 発行してお届け！

